

守れ、SATOYAMA! 里山に生物多様性を取り戻す活動



富士通グループでは、生物多様性保全へのさらなる貢献を目的に、里山保全活動を推進しています。その一環として、2008年11月2日に「穴塚の里山保全活動」を実施しました。

里山の自然と恵みを未来へ残すために

「ふるさと」という言葉から連想される古きよき日本の原風景、それは農村の暮らしを支えてきた身近な自然「里山」ではないでしょうか。茨城県土浦市穴塚には、穴塚大池を中心に雑木林や竹林等が囲むように広がる100ヘクタールほどの里山があります。かつて燃料の薪や肥料の落ち葉を集めたり、山菜を採ってきた林をはじめ、田畑やため池等、人々の生活と深い関わりを持つ里山。その保全活動を続けるNPO法人「穴塚の自然と歴史の会」の協力のもと、富士通グループは里山の自然観察や外来種駆除活動を行いました。

穴塚にとってふさわしい生態系の再生を

今回の里山保全活動には、富士通グループの社員と家族44名が参加しました。まず自然観察を通し、穴塚に生息する動植物についての知識や理解を深め、自然に生きる知恵や文化とともに、里山が抱える問題についても学びました。なかでも深刻なのは、生命力の強い外来種の増加が著しく、古くからいる生物の棲み家を脅かし、生態系に乱れが生じている現状です。そこで、私たちの手で里山の本来の姿を取り戻すべく、外来魚と外来植物の2班に分かれて里山の再生活動に取り組みました。外来魚班は、ブルーギル、ブラックバス、アメリカザリガニを駆除。また、外来植物班は、日本の

在来種であるススキの群落からセイタカアワダチソウ1,000本以上を除草しました。

富士通グループは生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用を目指して、今後も里山の保全活動に取り組んでいきます。

〈参加者の声〉

- 里山の自然とは人間の手が入った状態での自然の営みであり、あるがままに放置することではないのだと理解できました。
- 里山保全活動や生物の生息について解説してもらうことで、自然・生物・人間の関わりにより興味がわきました。
- 外来種が元々の生態系のバランスをどのように乱しているのか具体的に理解でき、その繁殖力に驚異を感じました。
- セイタカアワダチソウの除草は、面積の広さ、本数の多さに加え、植物の根強さもあって大変でした。次回、除草作業の成果を確認するのが楽しみです



- ① 丈夫な根を張る外来植物の駆除は力仕事
② 小川ではアメリカザリガニ138匹を捕獲



富士通グループはチーム・マイナス6%に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

FUJITSU
JOURNAL
富士通ジャーナル

発行 富士通株式会社
マーケティング本部 eマーケティングビジネス部
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2
(汐留シティセンター)
印刷 富士通アプリコ株式会社

本誌ならびに本誌掲載の製品・サービスに関するお問い合わせ先
富士通コンタクトライン TEL 0120-933-200
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)
URL <http://jp.fujitsu.com/about/journal/contact/>



※本誌記事中のプログラム名、CPU名、システム名等は各メーカーの商標、または登録商標です。
※本誌に掲載されている内容については、取材時点によるものです。

※本誌は、森林認証紙を使用しています。また、印刷インキは大豆インキを使用しています。

©富士通株式会社2009 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Copyright ©2009 by FUJITSU LIMITED

WE0015-2009年3月AP